

## 令和3年度 自己評価表

愛媛県立伊予高等学校  
学校番号 (29)

教育方針		豊かな人間性を育てる教育の推進		重点目標	自らの力で、自らの未来を切り拓く生徒の育成 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通して～	
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策	
学習指導	適切な科目選択	進路目標に適した科目を選択したと実感できる生徒100% A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	A	概ね生徒自身が選択した科目については、満足して授業を受けていることがうかがえる。	「総合科目選択制」を導入し、教員側も何とか軌道に乗せるために努力した結果だと考える。毎年、教育課程を見直し、生徒の進路実現のために必要だと思うものを作っていく、ミスマッチの起こらないようにしていかなければならない。	
	分かる授業の展開	授業がよく分かる生徒100% A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	B	分かると肯定的に答えた生徒が8割、学力の向上を実感している生徒が8割弱ほどいる。また、教員も9割余りがよく分かる授業を実践していると答えている。	学力の「定着」を図る取組がまだまだ不十分である。また、新課程に備え、観点別評価の具体的な方法を研究していかなければならない。	
生活指導	基本的な生活習慣の確立	あいさつのできる生徒100% A：100% B：80%以上 C：60%以上 D：40%以上 E：40%未満	B	コロナの影響もあり、挨拶が十分にできない生徒も増えてきている。大きな声を出す機会が少ないので、全体的に「明るさ」「元気よさ」が欠ける傾向にある。	大きな声を出せなくても、心を込めて丁寧に挨拶をしている。適切な指導・支援を通して社会性を育て、気持ちの良い挨拶につなげたい。	
		清掃活動に時間いっぱい取り組む生徒100% A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	A	取り組んでいると「思う」「だいたい思う」の項目が、生徒は93%（昨年92%）教員89%（昨年58%）と、教員からの評価が30ポイント以上増えている。	今年度の取組・指導を継続実施していきたい。	
		5分前登校ができる生徒100% A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	A	全体的には指導が定着しており、良好な状態であるが、上級学年の5分前遅刻が多い。心身や家庭の問題等もあり、特定の生徒が繰り返す状況が増えている。	5分前登校指導だけでなく、教育相談係や学年団と協力し、生徒をサポートしながら改善を目指したい。	
		1か年皆勤生徒各学年の50% A：50%以上 B：45%以上 C：40%以上 D：35%以上 E：35%未満	E	1年生が41名（35%）、2年生が36名（21%）、3年生が75名（32%）が1か年皆勤の予定である。今年度は「感染不安」で出席停止の措置をした生徒が急増したことも影響したのではないかと考える。	精神的な弱さが目立つ生徒が増えている。学校生活を通して強い心を養い、家庭と連絡しながら改善を目指したい。	
		交通ルールを守る生徒100% A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	B	交通マナー等に関して、ヘルメットの着用については良好である。登下校時の並進については苦情の電話が掛かってくることもあり、十分とは言えない状況が続いている。	引き続き、交通ルールを守ることが自他の命を守ることに繋がるということを粘り強く指導していきたい。	
	教育相談体制の充実	相談する相手のいない生徒0 いじめ0	B A	先生に気軽に相談できると「思う」「だいたい思う」が、生徒70%、保護者80%、教員89%であった。 アンケート調査や担任による面談を行うとともに、生徒課、教育相談、学年と連携して早期発見、早期対応に努めることができた。	生徒と教員の意識に差異があるので、その改善に努めたい。 「学校いじめ防止基本方針」を見直した上で、組織的な対応に努めている。いじめ防止対策委員会を中心に、今後も、全教職員で取り組んでいきたい。	
特別活動	学校行事の充実	生徒・保護者の学校行事への満足度100% A：95%以上 B：85%以上 C：75%以上 D：65%以上 E：65%未満	C	新型コロナウイルス感染症対策のため、生徒の主体的な活動の場を制限したことが評価の低下につながったと考えられる。生徒は運動会74%、文化祭72%、グループマッチ81%が充実していると答えている。	運動会、文化祭ともに保護者、地域の方々に参加していただけるよう内容を更に見直し、活性化・レベルアップに努めていきたい。	
		学校行事に参加している保護者100% A：95%以上 B：85%以上 C：75%以上 D：65%以上 E：65%未満	D	新型コロナウイルス感染症対策のため、運動会は無観客で、文化祭は参加者を制限して実施した。	PTAの方々や連携を図り、積極的な参加を呼び掛けていきたい。	
	部活動の活性化	部活動をとおして心身を成長させることができたと思う生徒100% A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：75%以上 E：75%未満 県総体出場200名、県高文祭エントリー7部門、四国大会以上の大会への出場6部	B C	5月末の部活動加入率は92.5%である。感染症対策で活動制限はあるが、指導の工夫で活動状況は概ね良好であった大会やコンクールが再開されたことで転・退部する生徒も減少した。 県総体は110名と目標には届かなかった。高文祭エントリー5部門、四国大会以上出場の部、体育部3、文化部2と届かなかった。	部活動を手段として、どう将来に生かすことができるかを考えて取り組ませたい。生徒・保護者・教員が納得することのできる部活動運営を推進していきたい。 部活動週休2日で結果を求めるためには、より充実した効率的、効果的な指導の工夫が必要である。目標達成に向け、日々の部活動に積極的に取り組ませたい。	

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

## 令和3年度 自己評価表

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
特別活動	ボランティア活動や地域のイベントへの意欲的な参加	ヤングボランティア登録者数300名 A：250名以上 B：200名以上 C：150名以上 D：100名以上 E：100名未満	C	目標登録者には届かなかったが、188名であった。	今後も積極的な呼び掛けをしていきたい。
		ボランティア活動、地域交流などのイベントに年間10回以上参加 A：7回以上 B：5回以上 C：3回以上 D：1回以上 E：参加なし	D	コロナ禍で活動の場が激減した。参加する機会が少なくなりましたが、募金活動には積極的に協力できた。	今後機会があれば、地元の地域交流行事へ積極的に参加したり、「総合的な探究の時間」を生かすなどの工夫で、地域との連携を更に深めていきたい。
進路指導	進路指導体制の充実	ホームルーム担任の個別面談を年6回以上実施 A：6回以上 B：4回以上 C：3回 D：2回 E：2回未満	B	学年やクラス差はあるものの、科目選択や進路選択の重要なポイントで、時宜を捉えて実施できた。	一律実施ではなく、必要な生徒に必要な時期に回数にこだわらずに柔軟に対応できるよう、進路課と学年が連携を取りながら実施していきたい。
		進路希望実現100% A：100% B：80%以上 C：60%以上 D：40%以上 E：40%未満	B	現段階で、ほとんどの生徒が4月当初の進路希望の第1、2志望校への進学が可能な状況である。一方で、進路目標が定まらない等の理由で10名程度の生徒が今後も受験予定である。	可能な限り早期の進路目標の設定を促していきたい。また、進路目標と現段階での学力差を把握させ、達成するための具体的な取組について助言していきたい。
		国公立大学合格20名、松山大学合格100名	B	地元志向の生徒が多く、県外の国公立大学を挑戦する生徒は年々減少しているが、松山大学については現段階で目標は達成できている。	国公立大学については、個別指導を充実させていくことが大切である。また、生徒数が減少しているため、実合格率に目標設定を変更したい。
人権教育	人権・同和教育の充実	学校全体に人権に対する配慮が行き届いていると思う生徒、保護者100% A：90%以上 B：80%以上 C：75%以上 D：70%以上 E：70%未満	C	地域と連携した社会貢献や、人に対する思いやりの意識が校内に徐々に浸透してきている。より気軽に相談しやすい環境づくり、自尊感情の向上が課題である。	人権デーの取組の中で、いじめ問題など生徒にとって切実な課題を何度も取り上げるなどして、人権教育の取組をより浸透させていく方策を考える。
		人権・同和教育学習が充実していると思う生徒、保護者100% A：90%以上 B：80%以上 C：75%以上 D：70%以上 E：70%未満	C	中予地区人権・同和教育研究協議会の開催にあたり、ホームルーム担任を中心に人権・同和教育の研究がなされ、学習の充実につながった。	地域教材を始め新しい教材開発に取り組むと共に、クラスで、いじめなどの人権問題に気付いて行動できる生徒の育成に取り組んでいく。
読書指導	朝の読書の深化	朝の読書を有意義だと思う生徒100% A：90%以上 B：80%以上 C：75%以上 D：70%以上 E：70%未満	B	7月に実施したアンケート調査では、朝の読書は「良いと思う」、「どちらかといえば良い」と回答した生徒が84%であった。	有意義だと回答した生徒は昨年度の調査から5ポイント増加した。朝の読書でクラス文庫を活用する生徒が24%いるので、クラス文庫の内容を充実させたい。
	読書指導の充実	年間図書貸出冊数2,700冊 A：2,700冊以上 B：2,430冊以上 C：2,160冊以上 D：1,890冊以上 E：1,890冊未満	A	貸出冊数は10月上旬に2,700冊を超え、一人平均5冊の貸出目標を達成することができた。	貸出上位の本は新刊の小説が多い。アンケート結果では「調べものをするために図書館を使用したことがない」という生徒が60%で昨年より12ポイント増加している。調べ学習に活用できる図書の充実を図りたい。
学校経営	教職員の意識統一	マニフェスト達成率100% A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	B	12月実施のアンケート調査によると、今年度のマニフェスト達成率は平均して85点、昨年度比8ポイント増であった。	一定の成果は上げたが、更に評価の基準を引き上げるなどして、教育活動の充実を図りたい。
	教職員の学校への愛着	各種教育活動（学力向上、部活動、学校行事、読書等）の充実度100% A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	D	コロナ禍の影響により、学校行事への制限があったため、低い評価となったと考えられる。	制限下の中でも、充実感・達成感が得られる行事となるよう、一層工夫したい。
	生徒の学校への愛着	伊予高に来てよかったと思う生徒100% A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	C	部活動・学校行事の充実を高く評価する一方、学力向上の充実への評価が低かった。	一人一台端末が導入され、活用を図っているところであるが、更に生徒の意欲関心を高められるよう、努めたい。
	開かれた学校づくり	授業公開参加者数1,200名以上 A：1,200名以上 B：1,100名以上 C：1,000名以上 D：900名以上 E：900名未満	E	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、目標値を大きく下回る結果となった。	感染の状況に大きく左右される。年間計画で予定した行事だけでなく、柔軟に変更・対応できるようにしたい。
		ホームページアクセス、年間80万件 A：80万件以上 B：70万件以上 C：60万件以上 D：50万件以上 E：50万件未満	A	11月上旬に80万件を達成し、2月末までで93万件を超えている。	総合的な探究の時間の活動報告や部活動の成果など、生徒の普段の活動の様子が伝わる情報の発信が増えたことが、目標達成につながっていると考えられる。今後も継続していきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

## 令和3年度 自己評価表

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
業務改善	適切な勤務時間	業務の効率化に努めた教職員100% A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：60%以上 E：60%未満	B	昨年度より教職員が減ったこともあり、効率化に努めた が、遅くまで残る教職員が見られた。	部活動や校務分掌の見直しを図り、教職員の負担軽減 に努めたい。
	職場環境の整備	ストレスチェックの実施により、「ストレスによる不適応状 態」の教職員0を目指す。 A：5%未満 B：10%未満 C：15%未満 D：20%未満 E：20%以上	B	ストレスチェックの結果、受検者のうち、高ストレス者が 若干名いた。	職場環境改善アンケートなどを参考にしながら、更に 働きやすい職場環境づくりに努めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。